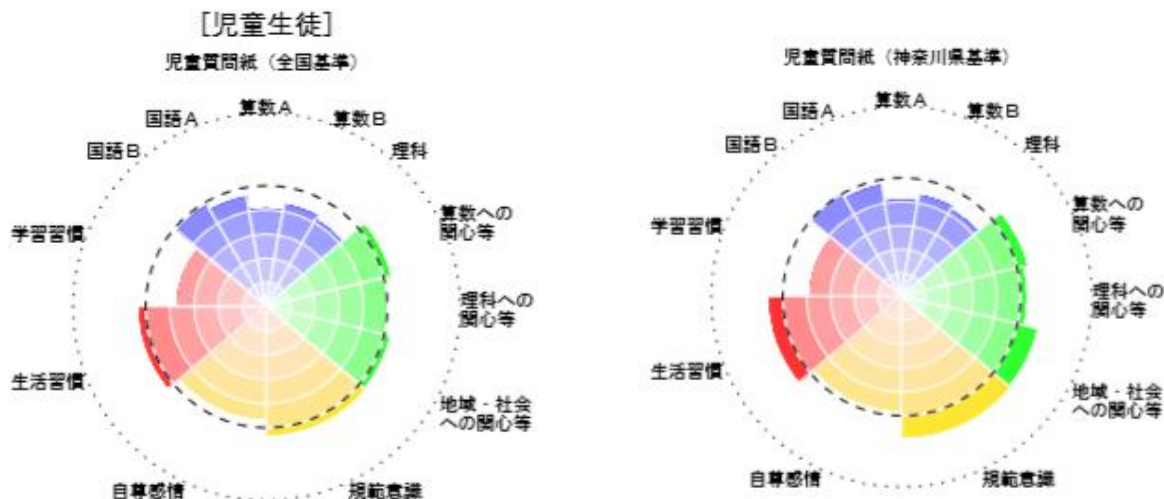


平成30年度 全国学力・学習状況調査 分析



『国語』では、A・Bをとおして、「書くこと」が－5～6%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は－3～4%下回った。「読む」力は比較的平均に近く、今後も目的や考えを明確にした読みや、表などに関連付けた読みを日々の学習で大切にしていきたい。しかし、目的や場面、情報に沿って対応したり、臨機応変に考えて話したりすることはまだまだ苦手だと考える。その時間や単元、展開に合った考えをもち、しっかりと発表したり、友達と意見交流をしたりすることができるような機会を、授業をはじめ色々な活動で意図的に設けられるようにしていき、力を付けていきたいと考える。

国語A（主として知識）では、「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。（－5%）」「目的に応じて必要な情報を捉える。（－5%）」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。（－10%）」「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う。（－4%）」などの問題で県や全国を下回った。県や全国と同じような正答率の問題は「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える。」「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。」であった。

国語B（主として活用）では、「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える。」問題が平均以上であったが、その他の問題は平均を下回った。「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える。（－6%）」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。（全国－12%）」となった。

『算数』では、 $A \cdot B$ をとおして、「数と計算」 -10% 、「量と測定」 $-6 \sim 7\%$ 、「図形」 -5% 、「数量関係」 $-8 \sim 9\%$ と全領域で県、全国を下回った。1時間の学習のめあてをしっかりとおさえ、身に着ける知識や技能を確実に習得できるような授業を今後も展開していきたい。また、小数や分数を含めた数の基礎的な概念を確実に身に付けるとともに、既習の計算を徹底していきたい。そのためには、日常生活への算数の活用、繰り返し問題を解くことによる四則計算の定着を大切にしていきたい。

算数A（主として知識）「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。 (-20%) 」「小数の除法の意味について理解している（答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ）。 (-10%) 」「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している。 $(-12 \sim 13\%)$ 」「 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる。 $(-12 \sim 15\%)$ 」「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。 (-15%) 」と、大きく平均を下回った問題が多かった。

算数B（主として活用）では、「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる（1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める） $(-16 \sim 17\%)$ 」「32, 40の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す。 $(-12 \sim 13\%)$ 」が大きく下回った問題であった。

理科では、「観察・実験の技能」の観点で -13% 、「科学的思考」で -6% と他観点よりも平均が大きく低かった。B区分の「生命」で -3% 程度ではあるが、A区分の「物質」と「エネルギー」は $-8 \sim 9\%$ と差は大きくなった。問題解決学習の中核である観察や実験をより意図的、目的的な活動と位置づけ、観察・実験の結果を吟味して、科学的な見方や考え方を味わうことができる授業を展開していきたい。また、学びの定着とともに、観察・実験から新たな疑問や興味・関心につなげることで、知識を生活の中で活用しようとする態度を育てるのではないかと考え、科学の有用性を実感させていきたい。

「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。」問題は、平均を大きく 10% 上回った。「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。」「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。」問題は、平均とほぼ同じ正答率であった。しかし、「回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ。 (-15%) 」「ろ過の適切な操作方法を身に付けている。 $(-12 \sim 13\%)$ 」「より妥当な考えをつくりだすために、海水と水道水を区別する2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる。 (-14%) 」など、大きく平均を下回る問題も多かった。